

東京都が「つくる会」系の歴史・公民教科書を採択したことに抗議し、採択の撤回を要求する

本年7月28日、東京都教育委員会は、2012年4月から都立中学校及び特別支援学校で使用する教科書の採択を行った。

その内容は、都立中学校で使用する教科書として育鵬社版歴史教科書及び同社版公民教科書を、都立支援学校で使用する教科書として育鵬社版歴史教科書及び自由社版公民教科書を、それぞれ採択するというものであった。

自由社版の教科書は「新しい歴史教科書をつくる会」（つくる会）、育鵬社版の教科書はつくる会から分裂した「教科書改善の会」（改善の会）によって作られたものである。

育鵬社及び自由社の各歴史教科書及び各公民教科書は、いずれも、アジア諸国を蔑視し、天皇を中心とする日本の伝統を情緒的に強調し、日本国憲法を押し付けられた憲法であって「改正」すべきものと教え、自衛隊を海外に派遣する必要性を強調する教科書であり、一言でいえば、「戦争をする国」を担う国民を育成しようとする教科書である。

東京都教育委員会は、これまで4回にわたって、「つくる会」系列の歴史教科書及び公民教科書を採択しているが、いずれも市民から強い反対を受けている。

同教育委員会の今回の教科書採択は、このような強い反対を無視したものであり、子どもと日本の現在と将来に重大な問題を引き起こし、国内はもちろん、アジア近隣諸国からも厳しい批判を受けることは確実である。

われわれ自由法曹団は、同教育委員会の今回の歴史教科書及び公民教科書の採択に対し、抗議するとともに、ただちにこの採択を撤回し、改めて十分な調査研究に基づく採択をやり直すことを要求するものである。

2011年7月29日

自由法曹団
団長 菊池 紘
自由法曹団東京支部
支部長 藤本 齊